

2・20 高浜3号基停止に当たっての声明

「第二のフクシマ、若狭原発震災」の前に、広範な、深い論議と行動を！

今日、高浜3号の停止によって、若狭15基の全原発が停止したことになります。4月中には国内54基の全原発も停止します。半世紀近くにおよぶ原発開発・運転史上初めての事態です。

これまで原発を推進してきた人びとにとってはビッグ・ピンチですが、不安と憂慮を抱いてきた地元住民・国民にとってはビッグ・チャンスの到来でもあります。第二の破局的な大事故・原発震災を待って、原発依存から脱却するのか、それとも、福島のと酷な犠牲者や被災者たちに真に報いるためにも、若狭・福井県のわたしたちにはそのことが厳しく、真摯に問われています。

「原発なしでは電力不足」の主張の真偽がまさに検証されようとしている矢先に、全国に先駆けて大飯3・4号の「再稼働」が強行されようとしています。福島事故の責任もとらず、国民の信頼を失墜し、3月末にはその存在も消失する保安院や安全委員会の審査そのものを、わたしたちは容認していません。

また、「ストレステスト」の是非のみに矮小化したり、「暫定的」な安全基準や「技術的」な知見に限定して、「再稼働」の条件としている国や県の方針にも大きな疑義と不満があります。

「再稼働—原発依存の延命」の前に、福島原発震災の犠牲・被災者たちの心身にわたる苦悩や生活上のダメージ、原発依存に由来した経済的・社会的な大損失など、その全体的な実態をこそ、一年後の現在、最優先して検証すべきでしょう。

大飯原発に固有の問題としても、3活断層連動による耐震評価の無視、歴史地震・大津波の痕跡調査の未実施、地元中の地元たる小浜市と関西電力の不当な「安全協定」の未改定、不十分な防災対策など、当面する課題も山積したままで 「若狭原発震災の前夜」(石橋克彦氏)、

「第二のフクシマ 日本滅亡」(広瀬隆氏)の警鐘に耳傾ける時ではないでしょうか。

原発推進・反対の垣根をこえて、若狭・福井県内外のすべてのみなさん、直ちに広範な、深い論議と行動を展開することを心から訴えます。

2012年2月20日

原子力発電に反対する福井県民会議

原発設置反対小浜市民の会